

みんぱく 公演

企画展「記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産」関連 **うのとりかぐら**

鶴鳥神楽

 みんぱく公演



2012年10月21日[日]

13時—14時30分(12時30分 開場)

 国立民族学博物館

□ 場所：国立民族学博物館 講堂

□ 司会：日高 真吾 国立民族学博物館准教授

□ 定員：450名(申込不要・先着順・参加無料)

□ 解説：橋本 裕之 追手門学院地域文化創造機構特別教授

展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

■主催：国立民族学博物館 ■共催：NPO法人 WARP-LEE NET ■協力：追手門学院地域文化創造機構

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

企画展
関連イベント

鶴鳥神楽 うのとりかぐら みんなく公演

東日本大震災から1年半が過ぎ、被災地は少しずつ復興に向けて進み始めています。みんなくでは震災後、有形・無形の文化遺産の復興支援を中心に活動を続けており、その取り組みの一環として、9月27日より企画展「記憶をつなぐ—津波被害と文化遺産」を開催します。本展示は、みんなくがこれまで支援してきた文化遺産の実情をより多くの人に伝え、関心をもっといただくことを目的としています。この関連催しとして岩手県下閉伊郡普代村の鶴鳥神楽の公演をおこないます。伝承されてきた三陸沿岸部の文化を実際にご覧いただき、東日本大震災と東北地方へ再度まなざしを向けてもらう機会となればと思います。

鶴鳥神楽【うのとりかぐら】

「鶴鳥神楽」は岩手県下閉伊郡普代村に鎮座する鶴鳥神社の獅子頭である「権現様」を奉じて演じられる、岩手県を代表する民俗芸能です。毎年1月から3月にかけて、1年おきに沿岸部の北と南に点在する「宿」を訪ねて公演する「巡行（じゅんぎょう）」をおこなってきました。鶴鳥神楽の巡行は沿岸部に暮らす人びとの願いに応えるかたちでおこなわれるため、喜びと畏敬の念をもって迎えられて、今日まで連続と続けられてきました。沿岸部の人びとは1年おきに訪れる鶴鳥神楽の祝福を心待ちにしてきたのです。しかし、東日本大震災が沿岸部にもたらした壊滅的な被害によって、宿の多くが失われてしまいました。そこで企画展「記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産」開催を機に、地域とともに再生の道を歩み始めた鶴鳥神楽を大阪に迎えて、民俗芸能の復興を祈ります。



交通のご案内

* 国立民族学博物館（みんなく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
* 公演のみ参加される方は、自然文化園（有料区域）を通行される場合、入園料が必要となります。
「公園東口駅」下車徒歩約15分
* 「公園東口駅」からは自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。
- バス……………【近鉄バス】（阪大本部前行き）阪急茨木市駅から約20分、JR 茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
【阪急バス】（万博記念公園駅経由千里中央行き）
阪急茨木市駅から約20分、JR 茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
- 乗用車……………駐車場が無いので「みんなく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場（有料）をご利用願います。最寄りの「日本庭園前駐車場」から約5分
* 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

出演

うのとりかぐら かぐらしゅう
鶴鳥神楽 神楽衆
（岩手県下閉伊郡普代村）

- 太鼓・胴取：三上 岩富
- 鉦・神歌：木村 義男
- 鉦・太鼓：畠山 源一
- 舞手：工藤 淳泰
- 舞手：工藤 伊大
- 鉦：笹山 英幸

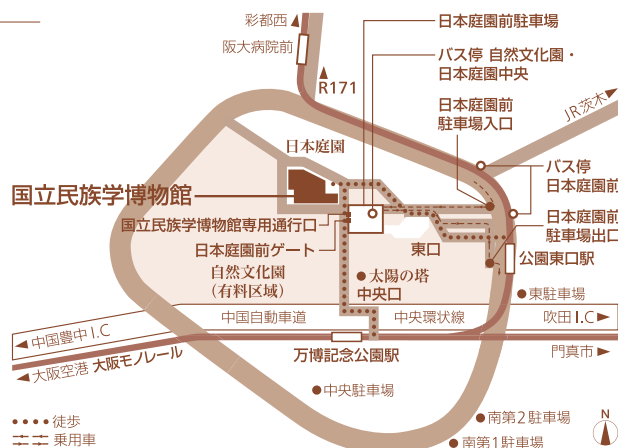
演目

1. 座揃い
2. 清祓
3. 山の神
4. 恵比寿舞

企画展

「記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産」

2012年9月27日（木）～11月27日（火）
国立民族学博物館 本館企画展示場 A



国立民族学博物館

● お問い合わせ
国立民族学博物館 民族学資料共同利用窓口
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6878-8213
<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなく
携帯サイト

